





舟松居る所

山日の影を待つ

玉琴

あふるふくふくふく
かきと白くはるのけしき
雨へくくくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく



あふるふくふくふく

かきと白くはるのけしき

くくくくくくくくく

舟ふくやうきふくふく

全

此道の俗談を伝へん
古文書家此より縁
附——く赤木の傍
おうつむと一飲二量の
しきさうと

恵り余り

受りのうゝんや神と梅の茎

瑞石

糸をく——切馬もいり恵り道

元園

花咲や祖父

くもとの白髪も明く春の真
梢よりい中頼る波のうそ

元寄
宗花

名馬揃

うもそ船中衣——や大い先
下よりうそ真のまより将某盤

清水
柳下

謎はく——

竹焼酎の壁を——のちの真
く川赤肉の上より解くや透る

夢瑞
瑞芳

勇力鏡

青川や赤振也名録之門

花明

赤杉の力ぬえーや去来の空

花水

氣、如入

大馬車仲人あり入るる門唐

玉曉

うとん粉の化粧もや如く君

公府

柳を節

川よそ柳並にふれり柳中記

蓮夕

洗濯のおくり逢や右節目

穠陽

四季耕作

晴風や種蒔るる家里へ門

可朝

と川ふとこ穀の事とて門唐

琳西

猿ノ内裏

と川妻や裾てびりし赤尻

宗尾

喉つとふ顔のぬき逢ふ皮せう南

曙光

月付語

とふくハ辰まね整道や紫一江

漢每

今又目加越ハ一光光や凡中

赤火

鳥羽臨ノ柳葉

系光光又帆の縁マ一系風細一

紙志

蝶もま一知一ぬめりもや縁更り

玉遍

二十の巻

元日の若麦や二十日のおまき巻

師校

今くもふくの巻やく川日新

子町

新光山入

常光く山音や耳も下手拙

風夕

負成ふく神ノ道や第く一こ

玉え

音切薩

屠糠子磁ノ使志古切薩うふ

府川

ふふやふく丸も鞠の口曲一

若乙

百物語

百子鳥鳴一よ家系やく川口向

福目

化もの河にむうしと時代の虫

安富

編年歌

子又まゝ福安候へく非在ひ
し門長や一尋つゝもひ非

沼花
無吹

鶴旦

年くは鷹さくへりおの虫
也の字は花よりしむ百福安

東和
鳥遊

去風が門に配れや扇をこ

女
松五

おたの虫を述ぐ

人ハまゝしりしお腰乃ろろ光
るも耳へ琴をききあふいと柳
やふ世知候へとや粥の枝
唐ア人しやろろ家標の節部き

眞宰
柳花
素杯
玲玉

今年も花のやろろし

年柳のやれと客や道組非
池水より字紙れやふきこの節
かうのり年の安やかろり虫

如消
長湯
凡志

柳も帰るや田井の江連勝 杜喬
 同くもそやぶらうもくもあ 一里
 く目親うけや磯る海磨 悠志
 か記やうふ松のあへやの才の奥 青豚
 難いゆり小袖のむえも白ひき 美尾
 東風うゝの雛歌来ふや扇賣 凡業
 伯のいふあふくも日や松かきり 可参
 潮起る傳受もいふれ九年男 貝源
 雲ふあや波ふんも新所き 雅小
 初いゝゝの字あふや門かきり 浦台

枕の青六月や屠蘇赤く 宇世
 雪や下りあふ海初とゆふと 葉萬

旧く湯宿の藤より居て
 似あけ

窓へまのあふとちうの神の梅 祐陽

万葉も蝶の葉内や舞如袖 常湯
 七種や指もみ麻えのいさねよき 和水
 手と梅のゆきまおまやそ和の妻 虎山
 夢果のさ(さ)り細くの才の鳥 潮白
 松ふやの膚を待ちや門の妻 瑞千

常やわきも葉際のみささしるん 文知
山松も残りくくくさのくさ 為尺
美さあやせん下座のまきくく 安迄

松風松のくくくさのくくさ
いづれも葉は白葉のくくさ

並松曙

松風もなやまのくくさのくくさ 柳几

腰掛酒

一葉松のくくさのくくさ 為秋

馬上居戯

かゝるまふさのくくさのくくさ 為丸

居風呂試

居風呂のくくさのくくさ 素又

逗留狗等用

御湯のくくさのくくさ 雨鶴

そ又渡

賣引のくくさのくくさ 去翹

出女ノ恋

旅人の袖をききくくさのくくさ 佳水

睦々川

美く川や枕をくくさのくくさ 李月

多居ノ樂書

多木ハ空——夫之の空——免

月ハ氣ハ空ハ後ハ草ハ——
田中後月連 田龍

新妻の孫は系族を指すといふ代
まへといふハちんも信へ久し
あほあほとて

級セ——系代ハ由つり葉の家ハ何
茅草舎 玄、若

船日の海ハ中 鶴ハん書ハん
遊主 茅川

川ハんもそわわと高くささるて、
茅、以

天の戸ハ空ハ——や梅乃とちう
柳岸

何等の掃そんふふと知の何
石端

年の蓋ハんふふとあつて山ハん
茅、あ

有ハ——九さ日ハんハんハん
千丈

信列小法連

梅ハんハんハんハんハんハんハん
瑞哉

松ハんハんハんハんハんハんハん
瑞声

東ハんハんハんハんハんハんハん
瑞之

梅ハんハんハんハんハんハんハん
和石

門松ハんハんハんハんハんハんハん
益水

氣ハんハんハんハんハんハんハん
平瑞

福列松

止く東

ふりり子ね作らぬ眉やうあ辰

幾回へりうれず船の梅うま

玉首

二尺より雪の地をもあつて

馬足

信上田連

柳をささるるもてあけてあのみ

東湾

柳うへ海とあつてあつてやあな

具湘

しとと船をささるるれやう川を

無字

雪のう川をささるるあや明かき

雨跡

年狭の袖も白くや門を梅

部員

船の往りりりりや明の具

東河

遠くあそび海より

うきうきうきうき

麦畑や海うきうき川目の出

秋又藤建連
百梅

あつてあつてあつてあつてあ

如介

あつてあつてあつてあつてあ

紫羅

新極やあつてあつてあつてあ

可柳

目のうきうきあつてあつてあ

柳受

あつてあつてあつてあつてあ

一重

車井のあつてあつてあつてあ

春浦

上德亭
西坡
東
魁

知以古尺

巨山

古石海寬
和
西
出列大和津

丸
新田万連

上
新
日
石
連
理
凡

秋

同五反田
急史

巴

松
柴

眞潮

通明

酒
仙

府里

和
例

飛渡

南

あまのふしあやややや山と

秋天下吉田連
紫格

うさき江沙代や二見乃る江連

上列多連
栗鼠

骨の袖ひへさきと花乃其

系
具書

くやうれく四葉ふ江からそそ

系
四葉

万葉やまのく鼓を解作

子風

病の病子神日のかりや手訓原

上藤井山連
梅田

簪並ふ細歌うきとあまのふ

斜陽

山くも衣冠やそ袖乃其

浴巾

けり衣や枝は福寿歌なり松

社口

明りり衣や豊より山あ

左あ

病の病の病や山く袖の其

旧左柳
風

系あや酔れあふる袖へ

上右佐川
松

若あまそとやいそむ骨の親

上右佐川
馬

あふ水と飯揚もその方の衣

上
光

松うさ門や袖日其親さへ

上
若

夜注のあふさやけや三乃袖

上
水

あふさむいふて現

あふさむいふて現

あふさむいふて現

上列多連
系

え日や何とせしうた大井川
 杉風や清のふれふあふ水
 舞のふれふと春と師海元
 奈のぬと川教へてや井の橋
 杉風も聲を清のやういふ
 何と何と梅もあふやと和の玉
 明りや明りさうりさの顔
 之青柳のやの梅もわりの玉
 ちりりさやささふと日の子
 え日や飛くも鶴の聲

枕山
 丹良
 易陽
 嵐鼻
 成規
 傾葵
 忍城
 戦而
 仙仙
 城泉

糸糸ハスレ高う
 井戸やの味いふのうらも

美水や春と二見の境か
 美水といふとさうさ男の
 梅のさや五人の子とも美さ
 雪のふやねさうり解さ門脚

斗者
 白鴨
 鷹肺
 呈端

美水

三味線と春もふろや
 雪もいふやと春の三度笠

三浦
 茶也
 歌川

杉風は主と師の境か
 糸糸ハスレ高う
 井戸やの味いふのうらも

傳中
千丈

こまけし如梅々る解家流意こま

梅々時流増々脆安 至芳

新入の地をかるゝ八奇も安 吾吹

玉音先生を元園の

地灯ふやあふあふ

カと滑く一歩真の

一歩こし一歩こし 傳中

首一江風はさうりの柳々 田龍

あゝ葉々松江流景香解 至芳

世子元は田螺一番る金音さ 瑞花

歳暮

新やーのめあ売名ー古磨 柳居

月花とはあふるや年の暮 吾吹

年内立妻

青江流八百金もりて年の内 瑞花

蝶々もさやあふる松とらる 門要

鶴の巣とやあふる松とらる 馬光

渾な新果はらりる金音乃れ 升阿

あゝ鶴のようは席や蝶の顔 寧和

自心と人の心を八年と惜みあり

有佐

前々或く好むの種やまゝの豆

東紅

しりおとあゝのや年の夕に

礼
樂

癸卯年也屠換帖

急遊

侍るに要や音根も小居眠り

谷水

冬川の子も文とけや年の飯

瑞如

とん 巻ハ下 漢 子ナリ 漢 子ナリ 漢 子ナリ

蓮朝

紙巻のくも著者 嬉し 通の内

五
謀

皆以心爲主
也

宣
卷

此乃金瓶梅

之の尻に涙と書自や焦婦

戶
源

年の隙潜めく揖や冥に

風志

子んをうけやうと申すは

青野

おろの 眠り 笑し や 煙 乃 名

負

解、
有
之
以
方
其
家
稱
引

風華

河
 古
 新
 の
 校
 始
 公
 の
 爲
 へ

松 齋

蘇軾作也此乃沈氏所書

如

作 搥 要 作 作 作

字、

4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 5

中

猶も首よりわりのあつやをくさる

柳去

六つゝあつやをくさるの

凡山や柳をくさるにまゆさる

素珍

掛ねのくさるもあつやをくさる

出陽

春ハヤゝ移業の山や深安の松

可参

小車如園の坂やまゝの冥

浦名

市人のかゝるねうり年ノ冥

凡作

寸長

寸長

年々市長久く廊ハ花をくさる

巴谷連
進推

様もくさるやおまのねをくさるの内

波道

まゝ掃や二度の魁をくさる

逸秋

けりけりけりけりけりけりけりけり

留章

書列やあつやをくさる

和明

指しねりけりけりけりけりけり

和明

あつやをくさる

甘蘭

あつやをくさる

以定

あつやをくさる

一細

あつやをくさる

志遊

あつやをくさる

志遊

友うゝ酒の手撫やうのきこ
 幣振るゝあは次大あゝの市
 囀ゝうゝ梅のうゝまゝのりま
 危紫の道積ゝゆゝゝ依
 丈長ふゝあゝや年の老鰯
 山少所ゝへんぬあゝの市
 毎の葉は市ゝあゝの雪
 一際のもゝのゝきや通り町
 年々然り穢のそ尾と正一位
 うゝ部はといふ名をうゝの梅

志泉
 樹野
 苗志
 雨野
 志段
 志月
 恒子
 志席
 和野
 五丁

十番盤のまゝ引ゝや年の花
 志野

ちの花折所ゝゝ賣れ年々
 舌圓まゝのゝゝや午鶴のあ
 野嵐も静ふゝ年々
 世濟りの化あゝいなり厄押い
 衣配歌門の目らゝやと柳
 掛ゝも年々ゝゝあゝ乃音
 隙揺や町ゝと紅ゝあゝり
 行ゝも年々ゝゝあゝ年の豆

傳中連
 千丈
 雲水
 石旗
 柳眉
 玄谷
 田龍
 飯坂門浦
 古遠

系後連
理哉
拙乎
拙之
和石
平拙

玄石山草連
柳凡
兔秋
象丸

素文 雨翳 會翔 鍾水 星月 兔溪

安中連
常 瑞
文 瑞
潮 白

美しき川や是も花もくつりお前
 是よりもさるやと一の市屋り
 勝るや浪子の如き咲きん
 尾の尻ぬやと化し一年れき
 ちど花も賣りいもおと一の市
 山 志人 和 知 安 適

年満りも春飾を白とくふ
 公や魁く包む尻とくふ
 河よりや花もさるやと化し
 移りし浪子の如き咲きん
 巴 松 沢 仙

昆河門の花を食むや年満
 一と波や春のさるやと化し
 移りし浪子の如き咲きん
 西ふや梅と三人やと化し
 和 南 遠

生るもさるや花もさるやと化し
 河の地酒のさるや年満
 立市の是や花もさるやと化し
 花もさるやと化し
 梅 社 拾

上徳天来山蓮

耕こくまありとや四條守 友水
柳こりのまお梅のまきふりぬ 日吉
あくらも首飾りてそ衣飾り 松随

ふりひより重し英初虎のま 鶴野松山
清も皺うりや漬の年りてれ 下吉田
年の内よりふ手止しや梅枝 泉庵
初年のま飾り白やそそふめ 歌合
れりとのまよ魔ふりや葉井貴 吾山
あくらも首飾りてそ衣飾り 松随

あくらも首飾りてそ衣飾り 松随
あくらも首飾りてそ衣飾り 松随

り年お送し出りや橋根第 歌合
いらくらの年お送りや梅枝 梅阜
まのまのまも磯よ所をうか 本質
大しりの首飾り乳母のまきふりぬ 光江
まのまのまも首飾りてそ衣飾り 上列四乃
れりとのまよ魔ふりや葉井貴 昭風
たりぬあくらや戸魁の山乃腰 日吉
結債場の馬も帰らる年まぬ 水戸
あくらも首飾りてそ衣飾り 松随

年ハ松枝も高きく庭りり

猪眉 駒 芳

豆サ郎は足跡歩むや長廊下

上張赤金 東 眩

ゆめと馬と夢の火いさ度

上列三條 玉

文の白く大黒もりりとの市

上列徳川 森 馬

やうく咲梢もんへて事の坂

常列大黒は 志 馬

是でもさ翁のんちぬ年のま

甲列馬と并 梅 馬

昔まのねしやうや年の際

和 水

年内五言

仲ハ帆と手あねれやとの内

上張川名連 可 比

塩おも尾おきとや年のほ

二 延

りさりのとの細へや松の風

山 紫

人の世ほやくうお例をやいの言

柳 水

縁おのうも袋をくさうぬ

山

宝崎のうさるをくさうぬ

昔 延

甲府連

年の波おやうのあり大和衆

羽 揺

お切りの陰の拍子や坂の臨美

白 芳

豆加り新や鏡のすくあ

一 咲

けやーや帯と鏡を無張子

志 丘

年の内はまのころり梅鯛

羽 寄

年波の影は備あり地儀 斗渚

着想

中一の湯のやんば様をい 公鴨

年波は二浪は飛スや因日 磨浦

う梅も人よはうやと昨をふ 呈瑞

山ううと重きと添ふ最貴物 ^{江戸}芝童

初月どと果と惜むや年の雪 湖北

枝折の柳は解のうかえう南 吾月

妻待うのれ抱い好乃那の
とくはくさう人んふ寂寂は
姉のふお多く雪月花は
甘ふ小雛裙を介文のふな
一層の床は雨をさすの解の
好きはるめうふ

学文好

象足の跡懐くく雪の年とて 瑞石

又その世話は般さるるを梅 光景

書信好

美し川やま川満ち段層
鶺鴒や芽季常緑まじり髪
冬寄

音曲好

も鰻のまじり八作を命じまじり
竹多ぬ松枝酒へや深井の雪
清み
柳下

神理好

飲立酒法もやまのうーる壁
柳をいへ川盤に曲へる空に
紫垣
松竹

猿とく

猿とくも猿とくもーの雲
隔指の日やうぬ川をまじり
冬み
夫み

豆麻好

豆麻もも折子果報やー忘
初めつものまじりまじり
玉曉
白庭

柳深好

舟の枯葉もーく春のまじり
蓮夕

第目の波とちりー年の暮

松湯

立花好

解ふふのふの水きやまきこ

う相

剣心よ立ちや門の巻と作

西面

古物好

手ふふ女房と海うき作を

中尾

探ふふ花ーはまふり年の暮

明光

物とね

物とねと昨そへ向ふ脊中

漢永

花鳥が物とねと草花柳うき

秋貞

野良好

おとふふねふはうひやとーの豆

汎志

子晴やまふが物とねと草花

玄遠

何とね

町下は橋の小云やとーの鳥

師杖

下とねの何とねは鳥とね配里

ふ町

暑き日

膝もきや膝へ埃のたういん

風夕

年もきや暑き日又熱いぬいぬ

玉え

角力好

暑き日又熱い土俵の隅ん

府川

掛をぬきぬもの十八日

首三

始末好

一思葉くくんむ年のことひや

稻月

二思きくくや方の葉竹

葉笛

小鳥好

何とりの葉きぬあけ餅招

招花

と啼きぬくや耳のききき

要吹

彫工 白仙



